



地域の復興に貢献する 石巻ブロック災害廃棄物処理業務 現場だより

鹿島・清水・西松・佐藤・飛島・竹中土木
・若築・橋本・遠藤 特定共同企業体
石巻ブロック災害廃棄物処理業務JV事務所
〒986-0841 石巻市雲雀野町2-15-3
TEL 0225-23-7701 FAX 0225-23-7707

2013年4月1日発行 第16号 (毎月1回発行)

東日本大震災から2年

東日本大震災の発生から2年を迎えた2013年3月11日、当現場においても各種の行事が行われました。

朝礼後8時30分からは、法山寺のご住職にお越しただいての三回忌法要がJV事務所前に建立した供養塔の前に行われ、宮城県職員様、石巻市職員様、JV職員、協力会社所長・職長など総勢約60名が参列しました。

午後からは大規模地震の発生に伴い津波注意報が発令されたことを想定した震災訓練が行われ、JV職員、A・Bヤードで作業に従事する作業員合わせて742名が朝礼広場に避難しました(各一次仮置場でも指定避難場所の確認などを行ないました)。

そして、東日本大震災の発生時刻である14時46分には全員で黙祷をささげ、震災で犠牲になった方々のご冥福をお祈りし、その後、JV職員と協力会社所長・職長は津波警報が発令された際の指定避難場所である日本製紙様の敷地内のグラウンドまで徒歩にて避難を行い、緊急時の避難ルートや所要時間を確認しました。

生業への復帰支援・地元企業との連携

3月12日、当現場で働く作業員への『生業への復帰支援』『地元企業との連携』の一環として、七十七銀行石巻支店様にご協力いただき、「七十七銀行 石巻ローンセンター相談会」を開催いたしました。相談会は昼休みを利用して行われ、復興支援住宅ローン・災害復興住宅融資・個人債務者の私的整理に関するガイドラインの利用について等の説明や、質疑応答などが行われました。参加者の中には実際に津波で失った自宅の住宅ローンを抱えている方もおり、開催後のアンケートでは「直接話を聞いて安心した」との感想も寄せられました。

3月22日からは、JV事務所1階に地元企業による復興企画商品などを紹介する「地元企業提携コーナー」を設置し、その場で商品を申し込むこともできるようになっております。3月14日には、石巻市内に本社のある(有)エポック様によるダン



住宅ローン相談会



展示即売会



地元企業提携コーナーの一角



指定避難場所までの避難訓練



三回忌法要の様子

北九州市、東京都への搬出が終了

昨年9月10日から開始された北九州市への可燃性がれきの搬出が3月末をもって終了いたしました。最終便のがれきは3月13日にタンブトラックに積まれて雲雀野を出発、同日中に仙台港に到着し、天候の回復を待って翌々日の15日に専用コンテナ船が北九州市に向けて出航しました。

最終的に北九州市に受け入れて頂いたのがれきの数量は200フィートコンテナで2863個、重さにして約2万2500tになりました。

さらに昨年6月21日から廃置と混合廃棄物を受け入れて頂いていた東京都への搬出も、廃置については昨年11月28日(約7000t)に終了、混合廃棄物については3月26日をもって終了しました。(約2万5000t)

がれきの広域処理に對しご理解とご協力に、JV職員一同、心より感謝申し上げます。



最終日のコンテナ積み込みの様子(東京都)



最終日のコンテナ積み込みの様子(北九州市)



仙台港を出発する最終便のがれき

はたらく機械シリーズ⑭ 移動式木材破砕機

タブグラインダーとも呼ばれ、廃木材をタブ開口から投入し、中にあるハンマーで細かく砕いて木質系チップをつくる機械です。

キャタピラがついているため自走することができ、他、機械内部にあるスクリーン(網)を交換することで製造するチップのサイズを変更することもできます。

当現場においてはバイオマスボイラーの燃料となる木質系チップの製造に使用しています。



—4月の主な予定—

- 4/1 安全大会
- 4/10 鹿島安全パトロール
- 4/11 月命日法要
- 4/11 石巻ブロック廃棄物処理推進連絡協議会
- 4/18 鹿島東京建築支店視察
- 4/19 雲雀野ご緑市(定期市)
- 4/25 暴排・防災協
- 4/26 鹿島安全監査

①出身地 ②主な職歴 ③趣味・特技 ④抱負

JV職員紹介

④私自身阪神大震災で被災した一人ですが、全国の皆様のご支援で神戸の街も見事に復興しました。その時のご恩をお返しする為にも、石巻の復興に少しでもお役にたてるように、微力ながら尽力いたします。



課長 鳥口 信之

①大阪府豊中市
②地中連続壁工事、シールド地中接合工事
③シールド工事(共同溝)建設工事(工場)アンダーパス工事(国道)
③釣(鳥ではなく魚)
娘と「ひつじのショーン」を一緒に観て笑うこと
④被災した方々が一日も早く仮設住宅から元の生活に戻り、家族や友人たちと笑顔で過ごせるように尽力いたします。



課長 森 栄仁訓